

がん治療の可能性を拓く 保険適用拡大の陽子線治療



メディポリス国際陽子線治療センター

理事長 永田 良一氏

1958年鹿児島市生まれ。聖マリアンナ医科大学卒、医師、医学博士(鹿児島大学)、密教学修士(高野山大学)。06年からメディポリス国際陽子線治療センター(メディポリス医学研究所)理事長。聖マリアンナ医科大学理事、順天堂大学理事、ブータン王国名誉総領事を兼務。

日本人の2人に1人は一生のうちに何らかのがんにかかるといわれています。がんは今や誰にとっても身近な病気であり、その治療法も日々進化しています。現在のがん診療の状況や増える治療の選択肢などについて、熊本大学病院の馬場秀夫病院長とメディポリス国際陽子線治療センター(鹿児島県指宿市)の永田良一理事長が語り合いました。



熊本大学病院

病院長 馬場 秀夫氏

1958年佐賀県唐津市生まれ。熊本大学医学部卒。医師、医学博士(九州大学)。米国テキサス大学医学部内科腫瘍学講座留学、国立病院九州がんセンター、九州大学大学院医学研究院などを経て、2005年熊本大学大学院医学薬学研究部 先端生命医療科学部門成育再建・移植医学講座 消化器外科分野教授。2021年から現職。

広がるがん治療の選択肢 放射線治療の二つ「陽子線治療」

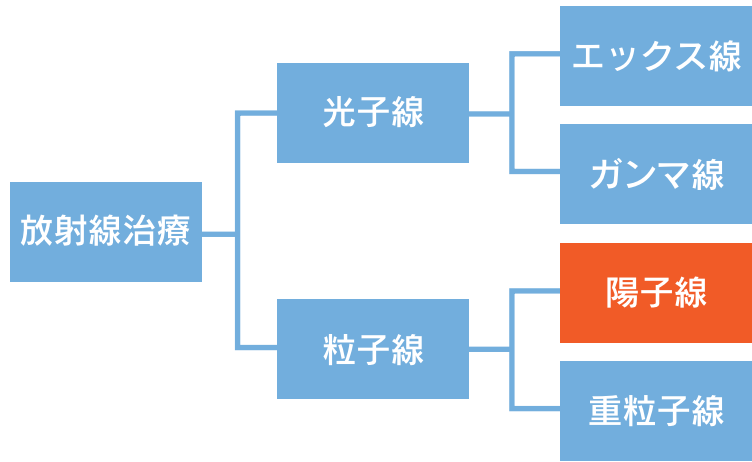
―最近のがんの傾向や熊本大学病院におけるがん診療の状況について教えてください―

馬場 少子高齢社会になり高齢でがんになる人が増えており、その約半数を消化器のがんが占めている状況です。私は消化器が専門ですので消化器領域についてお話ししますが、中でも膵臓がんや大腸がんが増加しています。固形がんにおいては根治的治療として手術ができる症例では手術をします。その方法は、従来の開腹手術から腹腔鏡手術やロボット支援手術が増えていきます。消化器領域はほぼすべてロボット支援手術が公的保険適用になり、普及が進んでいます。一方、局所進行がんや再発のがん、手術を受ける体力が伴わない方など手術が難しい場合もあります。こういった方たちには放射線治療と抗がん剤を使う化学放射線療法を選択します。放射線治療では従来のエックス線やガンマ線だけでなく、粒子線といわれる陽子線、重粒子線を使う、がんに対してより効果的な治療法が開発されており、治療の選択肢が広がっています(図)。抗がん剤についても、免疫チェックポイント阻害剤が登場して治療内容が随分変わってきました。熊本大学病院は県内唯一の特定機能病院として最新最良の治療の提供に努めています。

―メディポリス国際陽子線治療センターでは、馬場病院長が今お話しされた中の陽子線治療を担っておられるのですか―

永田 陽子線治療について、安全性や有効性の高さを示すデータが世界中で数多く集まっています。

■図：放射線治療の種類



■表：陽子線治療が保険適用となるがん

今年4月から保険適用となった疾患

(いずれも手術による根治的な治療が困難なものに限る)

- ・肝細胞がん
(長径4cm以上)
- ・肝内胆管がん
- ・局所進行性すい臓がん
- ・局所大腸がん
(手術後の再発)

従来から保険適用となっている疾患

- ・小児腫瘍
(限局性の固形悪性腫瘍)
- ・限局性の骨軟部腫瘍
(手術による根治的な治療が困難なもの)
- ・頭頸部悪性腫瘍
(口腔・咽喉頭の扁平上皮癌を除く)
- ・限局性及び局所進行性前立腺がん
(転移を有するものを除く)

後援：株式会社 新日本科学

局所への効果が高く 正常組織への副作用を軽減

馬場 治療法の選択肢の一つとして陽子線治療があることは、これまででも患者さんにお示してきました。今年4月に、肝細胞がん(長径4cm以上)や肝内胆管がん、局所進行性膵臓がん、術後再発の局所大腸がんが保険適用となったことで、これまで以上に紹介できるようになりました。従来の放射線治療と比べ、局所への効果が高く正常組織への副作用が軽減できる、メリットの大きい治療法だと考えています。

永田 馬場先生にお話しいただいた正常組織への副作用の軽減は、乳がんの術後照射がよく分かる例になります。近年大きく増えている乳がんですが、手術後に放射線照射をしないと8人に1人は再発するといわれているほど再発率が高いがんです。そこで術後照射を行います。左胸にできた乳がんの術後エックス線照射によって、5〜10年後に心筋炎や肺線維症など重篤な疾患に罹患するリスクが高まるという文献が数多く出ています。これが陽子線治療ではかなり抑えられるといわれます。アメリカでは、乳がんの術後照射に陽子線を行う例が急激に増えています。これが保険適用になれば多くの患者さんにとって

て朗報になると思います。

医療機関の壁を越え より良い治療効果を

永田 4月から保険適用になった膵臓がんでは、すぐには手術が難しい場合でも、陽子線治療と抗がん剤治療によって局所をたいた後に手術をする。非常に良い結果が出ています。私たちだけではできないことは、外科の先生方とチームを組みコホレーション(集学的治療)することで、予後や生存率の改善に貢献できます。

馬場 膵臓がんは発見されたときには進行していて手術ができる患者さんが少ないという事実があります。手術が難しいのには2つのタイプがあり、一つは膵臓から離れた他の臓器に転移している場合です。もう一つは、膵臓の周りには重要な血管があるのですが、その血管にがんが広がっていて切除できないというケースです。手術前に行う陽子線治療や抗がん剤治療の効果が高いのは、後者のタイプになります。周囲臓器を巻き込んで進行する局所が陽子線治療や抗がん剤治療によって小さくできれば手術ができるようになります。この治療法は効果的で、陽子線治療は大きな意義があるものだと考えています。

永田 がんは命に関わる病気です。患者さんに最善の治療を提供するためには医療機関の壁を越え、それぞれの得意分野を提供し合い連携して取り組むことが大事です。

馬場 私は大学卒業以来ほぼずっとがん治療に携わってきました。中には先ほど話題に上がった膵臓がんのように、手術することができずに治療成績が良くないものがあります。それが今、さまざまな治療法から選択し、うまく組み合わせることでより良い結果をもたらすことができるようになってきました。全体としてこの集学的治療に移ってきています。がんを患って治療を受けてもQOL(生活の質)を損なわずに暮らしていくための治療戦略の一つに陽子線治療が入っていると思います。

必要な癒やしの要素 患者さんらの交流の拠点にも

―馬場病院長はメディポリス国際陽子線治療セ



熊本大学病院構内

ンターに行かれたことがあるそうです。

馬場 医局旅行で行き、施設などを見せていただきました。素晴らしい環境、景色、施設でした。治療を受ける患者さんは心身共に苦しい思いをされるわけですから、こういった癒やしの要素は必要だろうと感じます。私たちが熊本大学病院はできるだけ良い医療を提供したいと考え、人材や機器、技術などのレベル向上に努めています。あのような環境は提供できないところもあります。そういう意味でも、連携しながら総和として最良の医療を提供できるのが望ましいと感じています。

永田 治療中は、患者さんのご希望によって病棟に入院する方、患者さん専用のホテルに宿泊される方、通われる方と分かれます。九州内からは、治療のため当施設に4泊し金曜日にご自宅に帰り、週末を家族と過ごす患者さんもおられます。多くの患者さんの治療期間は約1カ月ほどですが、特に専用ホテルで過ごされた患者さんは仲間となり、退院後にもOBI会を作られることもあります。東京ドームが77個入る敷地のところどころに七福神を配置しており、OBI会で七福神巡りをされたら、温泉や食事を楽しんだり、交流が続いている話をよく聞きうれしく思っています。

がん患者さんのQOL(生活の質)向上に 陽子線によるがん治療を実践

相談センター：がん陽子線治療についてご相談を承ります

【診療時間と曜日のご案内】
診療受付時間／平日 8:00-15:30
診療時間／8:30-16:30
※治療・受診・ご相談は、完全予約制です。

【まずはお電話ください】
(平日 9:00-18:00)
☎0120-804-881



一般社団法人メディポリス医学研究所
メディポリス国際陽子線治療センター
〒860-0004 鹿児島県指宿市東方4423
<http://medipolis-ptrc.org/>



メディポリス
公式ホームページ

メディポリス指宿

検索

